

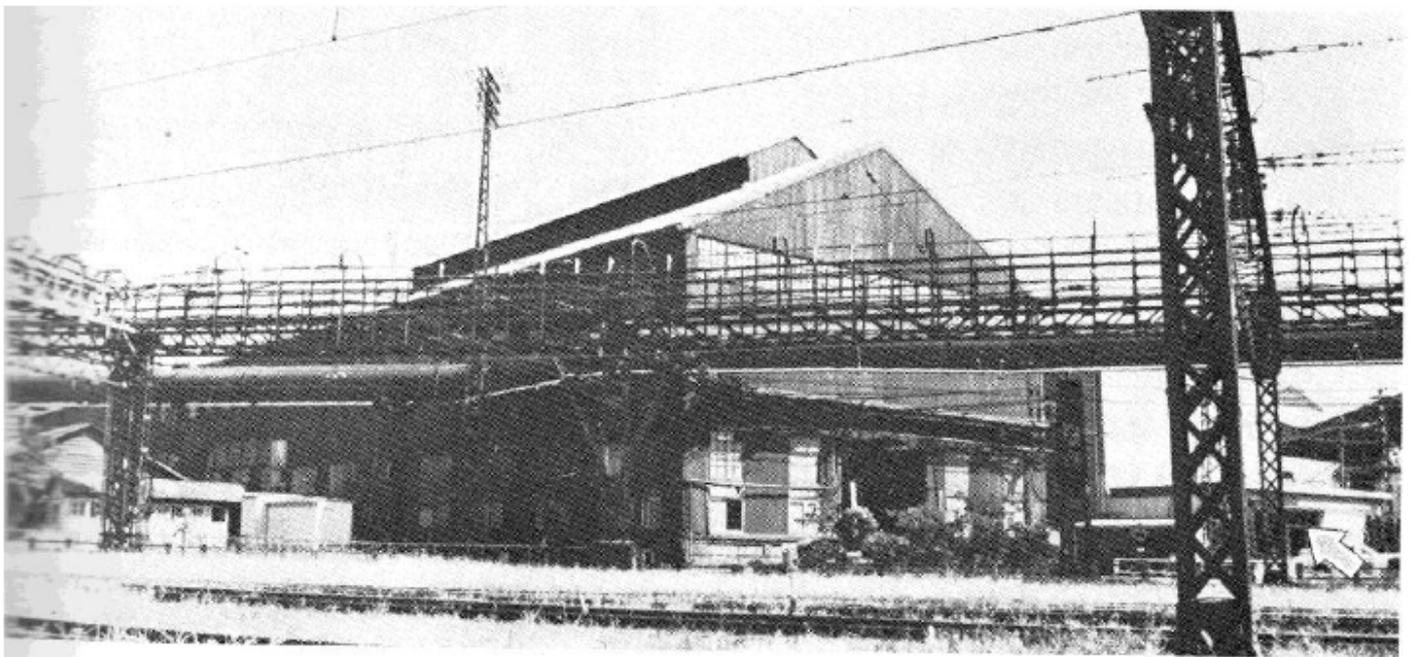
鉄都に生きた男たち

第一話 八幡製鐵所の礎を築いた男 その2

千々木 亨

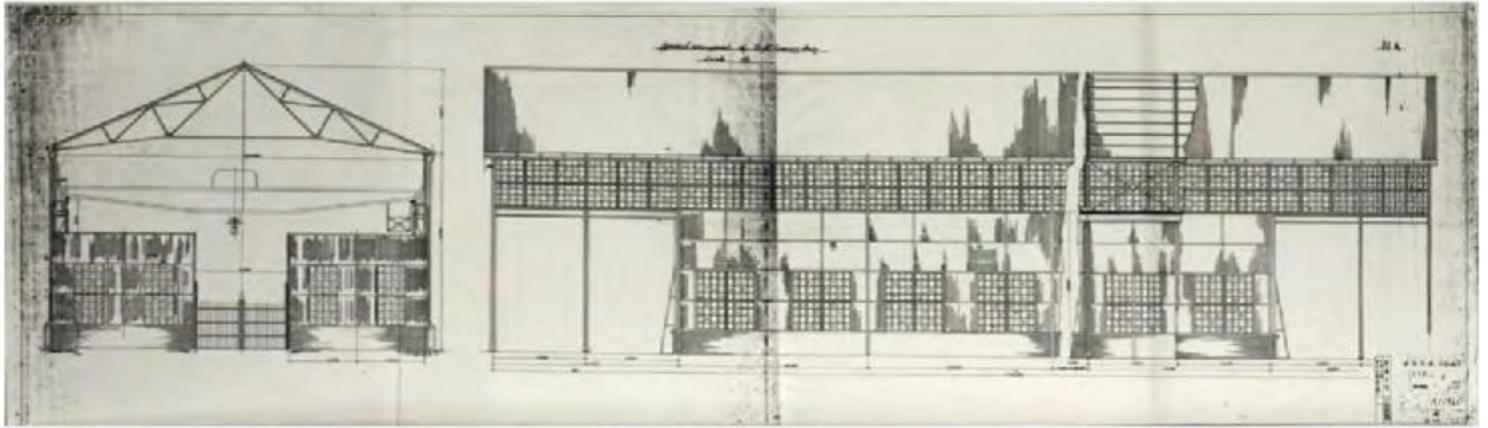
(昭54年卒 西日本ペットボトルリサイクル)

当時の製鐵所は洞海湾沿岸を整地してにわか作りで建てた工場であった。その職場環境も劣悪であったようだ。スタッフの勤務は毎日朝6時から晩6時までの12時間勤務。学卒である景山氏も官舎のあった大蔵地区から3kmほどの劣悪な泥道を毎日歩いて通ったそうである。製鐵所構内にもまだまともな道路はなく、技師も職工も線路の上を てくてく歩いて通勤していた。事務所には食堂なるものもなく製鐵所幹部を含め皆手弁当であった。製鐵所幹部は当時すでに石炭で繁栄していた若松地区に居を構え、優雅にも洞海湾を船で渡って通勤していた。泥道を歩く必要はなかったようである。当時の本事務所のすぐ前には幹部専用の渡場があったそうだ。おそらく、先般京機台九州支部で懇親会を行った料亭金鍋などは若松地区で製鐵所幹部が息抜きをする格好の宴の場であったであろう。



景山氏が設計した八幡製鐵所ロール旋削工場(昭和51年当時)

(出典: 八幡製鐵所土木誌より)



景山氏が設計した八幡製鐵所ロール旋削工場全体図面

(出典：開田一博著「日本における鉄骨構造建築の導入と発展過程に関する研究」より)

景山氏は入社当時から日本の鉄骨建造物がすべて外国の鉄製で外国人の設計によるものであることに憤慨し、なんとか日本の鉄と技術で鉄骨建造物を建設したいと考えていた。そのため、機械工学科出身の景山氏は土木設計技術を自前で猛勉強したそうである。景山氏の口述によると大学時代にも基礎の学問を学ぶ機会があったようである。当時の京都帝国大学には機械工学科と土木工学科しかない時代である。機械工学科の学生は一部土木工学科の講座も受講出来たそうで、景山氏も在学中建築構造学を受講し材料強弱学を担当していた松村鶴造先生などに教えを受けた。以下開田一博氏が当時の京都帝国大学のカリキュラムを調査されているのでここに紹介する。当時の京都帝国大学には機械工学科と土木工学科との共通講座として図式力学があり、おそらく景山氏はこの講座も受講していたと思われる。景山氏は強度計算書や応力ダイヤグラムを手もとに持っていたと述べており、トラスの図式解析などの技術を習得出来たようである。その他、京大機械には当時 松室重光講師による工場設計法などの講義もカリキュラムにあり建築構造技術の講義も充実していたようである。一方、土木工学科には日比忠彦教授がいた。彼は、明治35年(1902)にドイツ、フランスへの2年間の留学後、

明治38年(1905)から長期にわたり、建築雑誌に鉄骨構造の本格的な設計手法についての論文を掲載している。景山氏の口述によると、出張して京都大学に立ち寄っては教授の教えを請うたとある。開田氏はこれらの京都大学からの学術的知見が景山氏にとり大いに参考になったと見ている。

	鋼材使用量 千トン/年	輸入依存率 %
明治34年(1901)	194	97
明治35年(1902)	218	86
明治36年(1903)	267	85
明治37年(1904)	310	80
明治38年(1905)	445	84
明治39年(1906)	404	83
明治40年(1907)	545	80
明治41年(1908)	531	81
明治42年(1909)	379	73

日本国内鋼材使用量と輸入依存率
(出典：八幡製鐵所八十年史より)

かくして、景山氏はすべて八幡製鐵所の鉄を用いた純国産の鉄骨建造物を日本ではじめて設計し建設までこぎつけた。その第一号の建造物が幅20m長さ100mの八幡製鐵所のロール旋削工場である。米英調の屋根とトラスにドイツ式柱を取り込み連続梁を用いたユニークなクレーンガータを採用するなど独自性を意識した設計である。景山氏入社後わずか3年のことである。この建造物は現在のJR九州のスペースワールド駅の傍に相当する場所にあったが、15年前の八幡東区東田地区再開発の折、取り壊された。

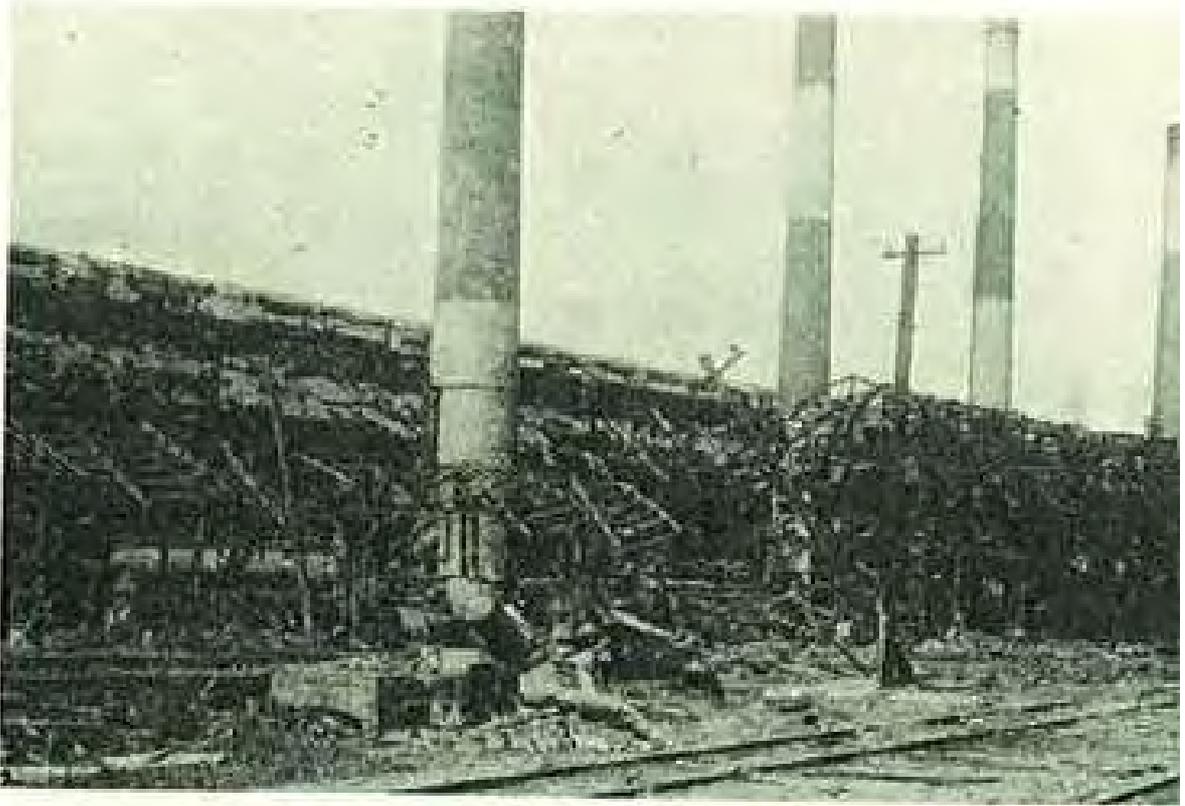


八幡製鐵所構内で仮組みされた
国会議事堂中央塔の鉄骨
(出典：八幡製鐵所写真集より)

景山氏の快挙は、鉄骨構造物設計の国産技術のレベルの高さを証明するものとなり、日本中に鉄骨建造物の建設ラッシュを巻き起こした。開田氏はその背景には日本での鋼材の国産化の進行があったと指摘する。確かに前表に示すように日露戦争後、鋼材使用量の伸びと鋼材の国産化は急速に進行している。

景山氏はその後次々と国内の鉄骨建造物の建設を任されることとなる。築地の海軍工廠製鋼工場上家や小石川陸軍工廠銃砲工場上家なども景山氏の設計であった。さらには当時の白仁製鐵所長官が中央政府に日本国のシンボルである帝国議会の鉄材と設計は八幡製鐵所にまかすべしと大々的に宣伝して受注に成功し、当時工作課長であった景山氏は大正十年にその国会議事堂建設の鉄骨構造の設計施工の責任者に任ぜられた。景山氏は9800トンという膨大な鉄骨を用いたこの大事業を昭和2年までの6年間で完遂している。その仕事は慎重綿密で、議事堂の鉄骨トラスを八幡構内で一旦仮組みし強度確認する念の入れようであった。

その後もアイディアマンの工務部長として高炉、ロール鑄造機、圧延機の設計に手腕を振るった。又、技能工養成学校など、各種の福利厚生や教育機関の建設も手がけた。又、鋼材部長となった後は洞岡地区や戸畑地区の拡張、ストリップ工場(薄板連続圧延工場)の建設など、八幡製鐵所の度重なる大拡張事業を次々に成功させ、当時世界有数の一貫製鐵所へ育て上げていった。



空襲で甚大な被害を受けた八幡製鐵所
(出典：八幡製鐵所八十年史より)

昭和9年に日本製鐵株式会社が設立されると景山氏は技師長に就任した。更に常務として臨時建設局長を勤め、昭和10年代の日中戦争前夜の鉄鋼大增産要請に対応すべく、当時のお金で6億8千万円という巨額投資となった輪西、広畑、北朝鮮の清津の大拡張事業を推進した。

その後景山氏は八幡製鐵所に戻り、昭和16年から昭和20年の太平洋戦争の最中の戦時の幡製鐵所長を務めた。八幡で製鉄事業を統率し幾多の空爆にも耐えながら鉄の供給基地の最前線を終戦直前まで守り抜いた。

八幡製鐵所にはその他にも京都大学機械系の卒業生で偉大な足跡を残された先輩がたくさんおられた。小職もそんな諸先輩から世界をリードする新技術、新事業に常に挑み続ける京大生の技術魂を入社以来何度も教えられてきた。「群れるな。一年目は黙って働け。二年目からは上司に反旗を翻してでもおのれの技術力で勝負せよ。」というのが、敬愛するある京大機械系の大先輩から受けた薫陶である。その源流に景山氏のようなすばらしい大先輩がいることを今回改めて学ぶことが出来た。

小職は今、北九州エコタウン事業という新日本製鐵が北九州市と共に展開している環境事業に参画している。その建設地はかつて官営八幡製鐵所時代に浅瀬の洞

海灣を浚渫した土砂で造った若松地区の埋立地にある。まさに、景山氏はじめ諸先輩の遺産のほんの片隅を間借りして事業をやらせてもらっているようなものである。この埋立地の道は雨が降ればすぐに泥まみれになる。そんな開拓小屋のような職場に通いながら、かつて高き志に心を燃やし、毎朝5時前に起きては、真っ暗な中、泥だらけの悪路を官営八幡製鐵所まで歩いて通い続けた若き日の景山齊氏に想いを馳せる今日この頃である。

第一話 おわり

(出典, 参考文献)

- 1) 景山齊 著 「製鐵むかしがたり」
- 2) 八幡製鐵所八十年史
- 3) 八幡製鐵所土木誌
- 4) 開田一博 著 九州大学学位論文
「日本における鉄骨構造建築の導入と発展過程に関する研究：
官営八幡製鐵所の創設期から昭和初期における工場建築の設計と建設」
- 5) 八幡製鐵所写真集
- 6) 鈴木淳（法政大学イノベーション・マネジメント研究センター）編
フランス語学習者から機械技術者へー小野正作の明治ー
（法政大学創立者薩正邦生誕150周年記念連続講演会資料）

—— 京機短信への寄稿、宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。宜しくお願い致します。

「知的書評合戦 ビブリオバトル」のススメ

谷口忠大（2001卒、立命館大学情報理工学部）

1. はじめに

みなさんは「ビブリオバトル」をご存じでしょうか？

ビブリオバトルとは、京都大学機械系研究室片井研（共生システム論研究室）から生まれた、書評を媒介としたコミュニケーションの場作りの新しい手法で、最近ではネットメディアにも取り上げられるなど、徐々に広がりつつあります。

ビブリオバトルのはじめ方は簡単で、

1. 面白い本を見つけて読んで来た上で、決められた時間に集まる！
2. 順番に一人5分でカウントダウンタイマーを回しながら、読んできた本のプレゼンテーションをする！（3分間のディスカッション付き）
3. 「どの本が一番読みたいと思ったか？」無記名で投票を行い「チャンプ本」を決める！
4. プレゼンテーションは動画で撮影し、後で Youtube にアップロードして世界中で共有する¹。

たったこれだけです。

1 プレゼンテーションの撮影とYoutubeへの動画アップロードは省略することが可能です

書評会的一种ですが、ビブリオバトル独自の決め事である「自分で本を選んでくる」、「5分間でカウントダウンタイマーを回しながらプレゼンする」、「チャンプ本を民主的に決める」、「Youtubeにアップして世界中で共有する。」等の面白くする仕組みが相互に繋がり合うことで、普通の書評会とは全く異なる「場」を生み出し、様々な効果をもたらします。

1. 新しい良い本に出会える。
2. プレゼンテーションスキルが上達する。
3. コミュニティ内での相互理解が深まる。
4. 自然な書評動画を多く生み出せる。
5. 読書が促進される。

特に1. と3. の相乗効果として参加者が得る、「本を通して人を知り、



<プレゼンテーションの多くは Youtube で視聴可能です>

人を通して本を知る」という体験は、ビブリオバトルが多くの人々を惹き付けるポイントとなっています。インターネット全盛の時代にあって、わざわざオフラインで一カ所に集まって、伝統的なメディアである本を媒介としてコミュニケーションする。そんなインフォーマルな知識共有の場作りは、「情報」が「データ」と同一視されてしまうゆがんだ情報化社会に対して人々が持っている違和感とともに、注目されているのかも知れません。

現在、ビブリオバトルは各種メディアでも取り上げられ、事務局と参加者の口コミを中心にジワジワと拡大の兆しをみせています。大学でビブリオバトルを取り入れた授業設計の試みや、企業内研修でビブリオバトルの活用など、書評会を超え各種知的活動への展開の動きが各地で生まれています。

この記事では京大機械系の研究室の日常活動の中から「ビブリオバトルがどうやって生まれたのか？」について現在までの足どりを追うことで、紹介にかえたいと思います。

2. ビブリオバトル誕生

2007年4月、筆者、谷口忠大が京都大学情報学研究科共生システム論研究室（片井研究室）に日本学術振興会特別研究員(PD)として着任しました。谷口はそれまでに機械系の榎木研究室で学位をとり学術振興会特別研究員(DC2、PD)の任に着いていました。工学研究科の機械系で人工知能系の研究で学位をとっておきながら、人間やロボットの社会適応能力への関心が高まり、当時、経営学や組織論に興味をもっていた谷口は、新たに参加した片井研で新しい有志ゼミを立ち上げようと考えました。片井研は非常にフランクなコミュニケーションの雰囲気になり、ゼミは提案したい人が提案して勝手に始めるといった如何にも京都大学らしい空気がありました。

しかし、一方で輪読会や論文紹介といった、よくある研究室の盛り上がりがない勉強会運営に疑問を感じていた谷口は「何かおもしろいやり方はないか？」と考えました。特に輪読会は課題図書を一冊決めて、みんな順番に読んでいくのですが、これはつまらない本を教科書に選んでしまうと最悪です。つまらない本を選んでしまったら、それだけで半



<カフェでの開催風景>

期が無駄になってしまうので、教科書に絶対の自信がないときには、リスクが非常に高い勉強会運営手法です。一方で、経営学や組織論ではケーススタディのような研究が重要で、かなり雑多に読む必要があり、「この一冊をじっくり読めば大丈夫」というものでもないと考えられました。そこで、輪読するのにいい本を選びあぐねた谷口は「いい本に出会える仕組み自体を勉強会の中に取り込めないだろうか？」と考えました。

また、誰かがレジュメをつくって、その発表をみんなが聞くだけの勉強会は、いつも盛り上がらないことに非生産性を感じていましたし、また、人の頭は自分自身が話さないと活性化しないということに気づいていました。また、一生懸命準備

知的書評合戦 **ビブリオバトル**

このサイトを検索

Infomation

Home

ニュース
開催情報
歴史
主宰者について
サイトマップ

How to

ビブリオバトルの基本
5分の使い方
タイマー情報
何人でやる？
スキルアップ
場所と開催スタイル
大切なこと

開催レポート

2010/3/15 未踏meets
ビブリオバトル@名古屋
2010/3/1 ビブリオバトル@518桃李庵
2010/2/22
Scienthrough
2010/2/7 ファミレス東京
2010/2/2 カフェ京都御
4

Home



What's new

ZIP-FM "TOYTA HYPER CHARGER!"に取り上げられました! 名古屋のZIP-FM番組 TOYOTA HYPER CHARGER 内でビブリオバトルについて取り上げていただきました。普及委員代表の谷口忠大(たにちゅう @tanichu)が電話インタビューに答え、5分ほどビブリオバトルについて説明しました。#名古屋で放送されるのに、なぜかやたら関西弁でした。.....orz 名古屋でも草の根的に拡がっていくことを期待しましょう！#あ、youtube動画配信のことを話すの完璧に忘れてた。5分で言うべき事言うのって難しい。ZIP-FM TOYOTA HYPER CHARGER ブログにも掲載いただきました。http://www.zip...

投稿: 2010/04/06 10:31, 谷口忠大

1 - 1 / 7 件の投稿を表示中 もっと見る >

ビブリオバトルは簡単です。

1. 面白い本を見つけて読んで来て集まる!



Twitter Monitor

☆ 詳しいビブリオバトルの情報は是非公式サイトをご覧ください
知的書評合戦 **ビブリオバトル**

<http://www.bibliobattle.jp/Bibliobattle> もしくは
ビブリオバトル で検索すれば多くの動画や情報が現われます！
ご連絡はビブリオバトル普及委員会まで！

ビブリオバトル普及委員会 bibliobattle@googlegroups.com

したレジюмеを読むだけになってしまう発表は、実は場を鎮静化させているだけじゃないだろうかという感覚を持っていました。そこで、みんなが探して読んできた本を、レジюмеなしで「即興性」を大切にして紹介し合って、その中で一番いい本を、みんなが読めばいいのではないだろうか？ と考えたのです。その即興による刹那的なプレゼンテーションもデジカメにより動画として記録され、Youtube などの動画共有サイトで共有する事で、その場に居なかった人とも情報共有できるでしょう。

こうして、カウントダウンタイマーを回しながらアドリブで読んできた本をプレゼンし最後に投票で「チャンプ本」を決めるという、現在のビブリオバトルの原型が誕生したのです。始めて見ると、このスタイルが、実は本との出会いを加速させてくれるだけでなく、プレゼンテーション能力の向上や、参加者自体の相互理解を加速させることに非常に有用であることが、わかってきました。徐々にビブリオバトルのスタイルは洗練され、現在のシンプルな形になっていったのです。

その後、ビブリオバトルは片井研の枠を超えて、学内の他学部の研究会、阪大のサイエンスコミュニケーショングループなどが開催。さらに、現在では京都だけでなく、大阪、東京、名古屋などでも開催されています。また、FMラジオ、インターネットニュースなどのメディアにも取り上げられ、大きな反響と広がりを見せています。

(つづく)

設計プロセス設計のすすめ

西本明弘 <ak246010@yahoo.co.jp>

1976年卒 プロセス設計塾

8. モデリング（可視化）だけでは設計できません

パーティショニングというシンプルな演算によってモデリング（可視化）が設計に進化します。このあたりを説明するのにちょうど良い図が、設計工学の冒頭「設計とは」にありました。図5.にあるように、計算（演算）があって初めて設計のループが回ります。計算なしに、試作品を何タイプか作って良かったものを選ぶ、ではいわゆるKKD(勘と経験と度胸)の世界で工学的とは言い難いです。ゴム、油、紙、人間など挙動不審の生物（ナマモノ）が関与すると、それに近い場合もあります。（注：生物（ナマモノ）表現は、産学懇話会でのトヨタの原口さんの話から借用です。）

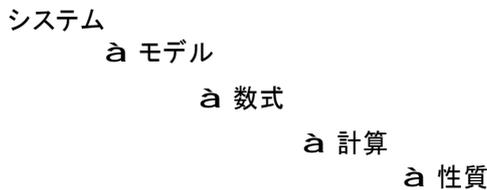


図1.2 システムへの科学的アプローチ



図1.3 システムを作る技術のプロセス

図5： 便覧 設計工学より

従来BPMで 取組むと	設計プロセス可視化 (フローの意識)	各種フローチャート (ソフト開発用)	各種ダイアグラム図 (ソフト開発用)		
i-DSM手法	設計プロセス設計 (ネットワークの意識)	設計要素ネットワーク (連鎖IPO)	初期DSM	並べ替え (パーティショニング)	仕分け後DSM 手戻り明確化・最小化
図7参照	ベルトによる 伝動機構	概念図	微分方程式	積分	目的関数
西本分類	現象・課題	⇒ モデリング手法		⇒ Tool	
便覧による	システム	⇒ モデル	⇒ 数式	⇒ 計算	⇒ 性質

↑ ↑ ↑ ↑ ↑
設計 ←

図6： 技術のプロセスの比較

図6に、この枠組みでいくつかの例を比較しました。上から、従来BPMで設計プロセスに取り組んだ場合、i-DSM手法（次節で説明）で取り組んだ場合、ベルトによる伝動機構を設計する場合があります。

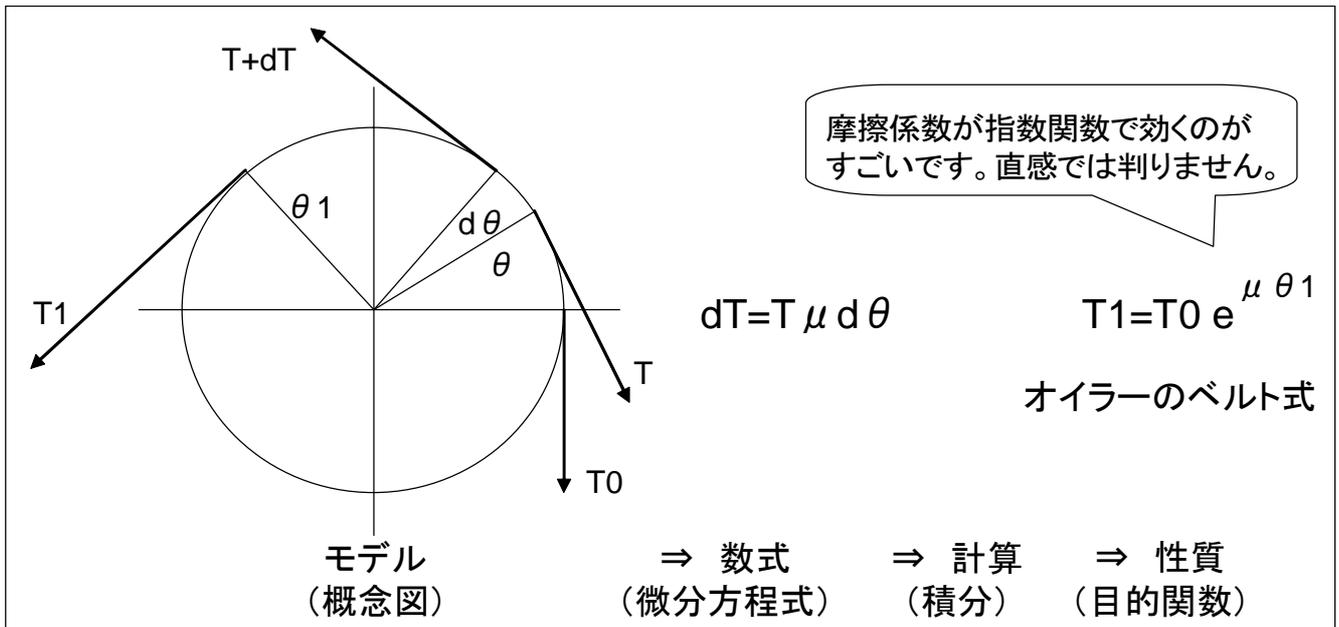


図7： お気に入りの1式

まず、ベルトによる伝動機構を設計する場合を図7. で見てみます。現象をモデリングして微分方程式で表現しても、計算できなければ設計できないのは自明です。幸い、1度積分するだけというシンプルな計算で答えが出ます。（簡単なのでオイラーでなくても思いつきます。）摩擦係数が指数関数で効くのがすごいです。直感では判りません。科学的アプローチの醍醐味です。スプリングクラッチのトルク・強度計算やロール紙Feedの設計など色々役に立った "お気に入りの1式" です。なにより簡単なのが良いです。なお、式は簡単ですが、肝心の摩擦係数が難物なので実験室にこもることになります。余談ですが、"お気に入りの1式" のテーマで投稿募集すれば色々面白い話が聞けるかもしれません。

直感では判らず、科学的アプローチでないとは判らない現実はいくらも有ります。例えば、地球が回っている、鉄の船が水に浮く、数百トンのジャンボ機が空を飛ぶ etc.。問題は、設計レビューや故障解析、投資判断の場で科学的アプローチが理解されない場合です。（直感による）現実に基づいて判断していると信じている人には、現地で現物を見せるしかないのですが、"パワーポイントで説明しろ"と言って会議室から出ようとしないう"パワーポイント病"にかかっていると判らせる

術がなく、"事件は現場で起きている！"と叫ぶか、"それでも地球は回っている"とつぶやくしかありません。イノベーターの苦労はガリレオの時代から同じということでしょうか。以上の思考実験から、イノベーションの芽を摘まないためにも、現地・現物・科学的アプローチの精神が重要です。

話をもどします。従来BPMでは、箱と線という表現形式の限界でモデリングも中途半端（半可視化）にとどまり、さらに計算（演算）機能がないため設計ループが回りません。i-DSM手法は、パーティショニングというシンプルな演算で設計ループが回ります。ということで、講演論文(2)のタイトルも、"モデリング"ではなく"設計"にしておくほうが適切でした。

参考文献

(つづく)

- (2) 西本明弘 "i-DSMによる製品設計プロセスモデリングに関する考察" 機械学会 第18回設計工学・システム部門講演会・2008.9.25-27

中部支部 2010年度若手企画第一弾

若手の会イベント 浜名湖編

開催場所: 浜松 渚園 & 浜名湖
 概要: 釣り+BBQ+ボート遊び
 日時: 5月15日(土) AM9:00~PM4:00



大まかなスケジュール

AM9:00	~	PM0:00	~	PM3:30
釣り体験		開会	BBQ	閉会
		開会の挨拶 (会長より)	ボート遊び	閉会の挨拶 (会長より)
		浜名湖生態系学習		
BBQからのご参加でもOK!				

5月はキビレのシーズン！
 もしかしたら大物がヒットするかも！




お申し込みは、京機会ホームページ

<http://www.keikikai.jp/shibu/cyubu/gyouji.html>

よりお願い致します。

1. 中国・インドの「ボリュウムゾーン」市場に挑む日本企業

～台頭する「中間層」・「中間層予備軍」の困り込みがカギ～

2010年4月7日

みずほ総合研究所

<http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/report/report10-0407.pdf>

2. 内陸部を中心とする中国「新興」地域の事業環境と日系企業のビジネスチャンスとリスク

2010年4月02日

JETRO 日本貿易振興機構

<http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/reports/07000222>

要旨： 2009年、世界経済が米国発の金融危機の影響を受ける中、中国は通年のGDP成長率8.7%と高成長を達成し、順調な回復をみせた。一方で、中国経済を牽引してきた沿海部は、貿易・投資依存度が高いことから、外需の減少により経済成長の落ち込みが目立った。こうした中、外需依存度が相対的に低い内陸地域経済は、全般として堅調に推移している。4兆元の景気刺激策の一環で実施されているインフラ投資も内陸地域に重点投入されており、固定資産投資が高い伸びを示しているほか、人口で中国の総人口の54.2%を占める中西部地域は、市場としても大きな潜在力を有する地域である。中国政府としても、地域間の調和の取れた発展を目指す胡錦濤政権の政策方針の下、西部大開発計画、中部崛起計画、東北振興計画など地域振興政策を引き続き実施しているほか、成都・重慶地域など、地域を絞った形での経済圏構想を相次いで承認するなど、地域振興策を強化する姿勢を示している。さらに、中国が「世界の工場」としてのみならず、「世界の市場」としての役割を強める中、外資系企業としても、沿海地域に加え、これまで未開拓であった地域をも視野に入れたビジネス展開が必要と考えられる。本調査では、各地域の経済・ビジネス環境の実態と、中国政府、地方政府が現在実施している地域発展戦略を俯瞰するとともに、これまで未開拓であった新興地域における日系企業の事業展開の状況・今後の取り組み方針をヒアリングし、当該地域における日本企業のビジネスチャンスとリスクについて実態を踏まえて考察する。

報告書(全文) <http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000222/zenbun.pdf>

「報告書__エグゼクティブ・サマリー」(1289KB)

<http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000222/summary.pdf>

「報告書__第1章・第2章」(1472KB)

http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000222/1_2.pdf

「報告書__第3章 I . 西部地域」(3159KB)

http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000222/3_1.pdf

「報告書__第3章 II . 中部地域」(2280KB)

http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000222/3_2.pdf

「報告書__第3章 Ⅲ. 東北地域、その他地域・第4章」(2482KB)

http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000222/3_3.pdf

3. 中国の新たな成長戦略として注目される内陸部開発

みずほ総研論集 2010年3月16日 みずほ総合研究所

<http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/argument/mron1003-4.pdf>

4. 「中国版ノンバンクローン」の展望と課題

～個人消費拡大の基盤拡充に向けて～ 2010年3月24日みずほ総合研究所

<http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/asia-insight/asia-insight100324.pdf>

5. 「チャイワン」は日本企業の脅威か? ～台湾の中国活用型成長戦略～

みずほリポート 2010年3月17日 みずほ総合研究所

<http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/report/report10-0317.pdf>

6. インド農村における購買力・消費の実態

～依然として低水準、今後の拡大も緩慢な可能性～

みずほリポート 2010年4月5日 みずほ総合研究所

<http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/report/report10-0405.pdf>

7. タイ経済の現状と今後の展望 三菱UFJリサーチ&コンサルティング

～ 台頭する巨大新興国にどう立ち向かうのか? ～

<http://www.murc.jp/report/research/detail.php?i=1106>

全文紹介 http://www.murc.jp/report_pdf/20100329_111127_0994191.pdf

○タイは、外資導入による輸出産業振興を梃子に経済発展を遂げてきたが、リーマンショックによる輸出急減で景気は大幅に後退し、2009年の経済成長率は、アジア通貨危機以来11年ぶりのマイナスとなった。

○リーマンショックによる景気後退と同時期に、タイでは政治的対立が激化し、バンコク国際空港占拠事件やASEAN首脳会議場乱入事件などが発生した。こうした事件は、タイへの外国人入国者数を急減させて観光セクターに大きな打撃を与え、また、タイの対外的イメージ・ダウンや株価下落圧力にもなった。

○タイ政府の財政出動や金融緩和といった景気対策や、民間部門の生産・在庫調整の進展、海外景気の底打ち・回復などを背景に、タイの景気は2009年1-3月期をボトムに回復傾向が続いており、2009年10-12月期には経済成長率が5四半期ぶりに前年同期比プラスに転じた。

○タイでは、アジア通貨危機後の構造改革によって、過剰な投資・対外借入を招いた要因が是正され、また、不良債権も整理され金融セクターが健全化されるな

ど、経済体質が改善していた。このため、今回のリーマンショックで、タイ経済は、アジア通貨危機の時ほど大幅な景気後退には陥らず、また、野放図な対外借入による過剰投資で金融危機に陥った他の新興国とは異なり、IMFに支援を要請することもなかった。

○タイは、投資先としての「人気」の面では中国やインドなど巨大な新興国に押され気味だが、実際の投資環境を見ると、インフラや裾野産業が充実しており、総合的に見て他の新興国よりも優れていると言える。実際、タイは、ASEAN域内最大のエレクトロニクス・自動車生産拠点であり、また、新興国の中で、タイは、中国に次ぐ世界第2位の日系企業集積国になっている。

○タイは、経済構造が健全でビジネス環境も良好であり、また、今後の中長期的な経済発展に不可欠なインフラ整備や人材育成に向けた施策も講じていることから、今後も、堅調に経済発展を続けていく公算が高い。

8. 日系企業のためのベトナムビジネス法規ガイドブック

2010年3月24日 JETRO日本貿易振興機構

<http://www.jetro.go.jp/world/asia/reports/07000195>

要旨： ベトナムに関する問い合わせ数は増加傾向にあり、法規面の相談も多くなっている。こうした相談需要に対応するため、ベトナムの現地ビジネス法規について、東京青山・青木・狛法律事務所に調査を依頼し、判りやすく纏めたガイドブックである。ジェトロの日頃の相談業務にも役に立つよう、具体的事例に基づいた解説もされている。当ガイドブックは二部から成り、第一部では主要なビジネス法規に関する概要・運用について、個別具体的に説明している。主な法令として、競争法、投資法、製造物責任、環境保護法、破産法、関税法、民事訴訟法などが挙げられる。第二部では、規制と実際の運用について、個別の事案を想定し、Q&A形式で解説している。M&A（合併買収）や銀行関連業務、委託加工契約・取引に係わる法規と手続き、その他、労務関連、紛争処理、外国為替管理など、既進出日系企業が頻繁に直面すると考えられる事例も含まれている。

Download:「日系企業のためのベトナムビジネス法規ガイドブック」(1102KB)

http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000195/vietnam_law_guide.pdf

9. 変化する対ベトナム直接投資の動向

～製造拠点から消費市場へ～ No. 5: 三菱東京UFJ銀行

<http://www.bk.mufg.jp/report/ecorevi2010/review20100331.pdf>

10. 平成21年度日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査

- アジアを再評価する日本企業と高まるFTAへの期待 - (記者発表)

2010年3月18日 JETRO日本貿易振興機構

<http://www.jetro.go.jp/news/releases/20100308934-news>

1. 日本企業の海外での事業拡大意欲は、金融危機の影響から着実に回復。中国を初めとするアジアにおいて販売拡大を志向する企業が増加傾向にある。
2. 日本企業のFTA／EPA（以下、FTA）利用は上昇傾向にあり、将来的に利用率が高まる可能性がある。アジア・大洋州地域の第三国間FTAについても活用への期待は高く、ASEAN・インドFTA（2010年1月発効）で、多くの企業が利用に前向きな姿勢を示す。

概要 ジェトロは、2009年11月から2009年12月にかけて、日本国内のジェトロメンバーズ企業3,110社を対象にアンケート調査を実施した（有効回答数935社、有効回答率30.1%）。内容は、経済情勢の変化などに対する日本企業の海外事業活動の動向に関するもの。本年度は、海外・国内事業展開への取り組み、中国における事業展開、自由貿易協定（FTA）の活用、アジアのビジネス環境などについて調査した。

(1) 中国の販売拠点が拡大

回答企業935社のうち、海外に拠点を持つ企業は62.1%（581社）である。そのうち、拠点の所在地をみると、中国が74.9%（435社）と最も多く、それに米国（44.8%、260社）、タイ（38.0%、221社）が続く。拠点の形態別設置状況を国・地域別にみると、販売拠点、生産拠点とも中国がそれぞれ49.2%、46.8%と、トップとなっている。特に販売拠点機能については、前回調査の46.5%から2.7ポイント上昇した。

(2) アジアで強まる販売機能の拡大意欲

海外での今後（3年程度）の事業展開方針（新規投資、既存拠点の拡充）は、「事業の拡大を図る」との回答が、前回調査の50.3%から56.0%へと増加した。機能別（販売、生産、研究開発など）の拡大方針では、中国がすべての機能でトップとなった。販売機能では、中国のほか、アジアNIEs、インドネシアやベトナムでの拡大志向が強まった。途上国向けの販売ターゲットの現状と方針について、企業向け販売では、地場企業向けを拡大する姿勢が強い。消費者向けでは、ニューリッチ・中間層および低所得層を重視する傾向が強くなっている。（3）中国とのビジネス拡大意欲が強まる

中国との今後（3年程度）のビジネス展開（貿易、業務委託、直接投資など）について、既存ビジネスの拡充や新規ビジネスを検討する企業の比率は前年比で13.4ポイント増加し、60.6%となった。事業拡大の具体的な内容をみると、「輸出増を図る」企業が13.9ポイント増の53.6%、「販売拠点を新設・拡充する」が8.7ポイント増の41.3%となった。

(4) 着実にビジネス利用が進む日本のFTA

2009年11月時点で発効している日本の9つの主要FTA（メキシコ、マレーシア、チリ、タイ、インドネシア、フィリピン、ASEAN、スイス、ベトナム）の優遇税率の活用状況について、「優遇税率を利用している／利用を検討してい

る」割合は33.8%にのぼった（母数には、貿易を行っていない企業も含まれる）。08年度調査（メキシコ、マレーシア、チリ、タイ、インドネシアの5カ国とのFTAが対象）では、「利用／利用を検討」が27.5%であり、日本企業のFTA利用は上昇傾向にあるといえる。個別のFTAの利用状況をみると、輸出輸入ともFTAの利用率が高いのは日本 - チリのFTAで、輸出企業68社中25社（36.8%）、輸入企業36社中13社（36.1%）が「利用している」と回答した。「利用を検討中」も含めると、輸出では日本 - チリが5割近くに、日本 - タイ、日本 - メキシコは4割程度に、輸入では日本 - ベトナムが4割程度に、日本 - ASEANが4割近くに達しており、将来的に利用率が高まる可能性がある。

(5) 活用への期待高まる ASEAN・インドFTA

現在、アジア・大洋州地域で発効している第三国間FTAについて利用状況を見ると、最も多く活用されているのはASEAN自由貿易地域のFTA（AFTA）である。実際に貿易を行っている企業のうち、3分の1（回答企業135社中45社、33.3%）が活用しており、利用を検討している企業も含むと5割を超える（70社、51.9%）。また、2009年11月時点で発効が見込まれていたFTAのうち、利用を予定している企業の比率は、ASEAN・インドが46.8%（79社中37社）と半数近くの企業が前向きな姿勢を示している（同FTAは2010年1月に発効）。特に「化学」（13社中11社、84.6%）、「自動車／自動車部品／その他輸送機器」（10社中7社、70.0%）などで利用に向けた積極的な姿勢が目立つ。

担当部課 ジェトロ国際経済研究課（TEL：03-3582-5177）

「平成21年度日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査」結果概要

<http://www.jetro.go.jp/news/releases/20100308934-news/data100318.pdf>

1 1. 知的資産創造 2

010年2月号

野村総合絵研究所

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/index.html>

「五年一昔」の中国

執行役員 此本 臣吾

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/2010/pdf/cs20100201.pdf>

特集：新興国市場に対応したビジネスモデルの再構築

新興国市場の成長と日本企業の戦略

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/2010/pdf/cs20100202.pdf>

中国の内陸部経済の勃興と日本企業の対応戦略

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/2010/pdf/cs20100203.pdf>

インドの都市発展に伴う市場拡大に対する外資企業の戦略

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/2010/pdf/cs20100204.pdf>

事業戦略コンサル 又木 毅、中島 久雄

ブラジルの消費者市場における日本企業の事業機会

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/2010/pdf/cs20100205.pdf>

グローバル戦略コンサルティング二部 青木 雅幸
長期視点から見た日本企業のロシア戦略の再構築 ～BRICsからRが消えるか～

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/2010/pdf/cs20100206.pdf>

モスクワ支店長 大橋 巖

韓国企業の新興国戦略に見る日本企業への示唆

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/2010/pdf/cs20100207.pdf>

ソウル支店事業革新コンサル 趙 桓?、張 峯碩、徐 絢桓
LONDON FINANCIAL OUTLOOK 政策策定プロセスの透明性確保に向けての施策

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/2010/pdf/cs20100208.pdf>

NRIヨーロッパ 近藤 哲夫

NRI NEWS 企業を取り巻く環境変化と戦略IT

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/2010/pdf/cs20100209.pdf>

戦略IT研究室 古川 昌幸

FORUM & SEMINAR 企業情報システムは5年後こう変わる!

<http://www.nri.co.jp/opinion/chiteki shi san/2010/pdf/cs20100210.pdf>

12. 金融危機から復活する韓国経済 住友信託銀行 調査月報 2010年4月号

http://www.sumitomotrust.co.jp/RES/research/PDF2/708_2.pdf

- ・ 韓国は2009年の実質GDP成長率が+0.2%と主要先進国がマイナス成長に陥る中で先行して景気回復している。世界的な金融危機が波及した韓国は2008年後半から急激な資金流出、ウォン急落に直面したものの、アジア通貨危機と比べると実体経済は素早い回復を遂げ、主に中国向け輸出が牽引している。
- ・ この背景には危機対応や景気対策に加えて、韓国の貿易関係の変化がある。趨勢として新興国向け輸出の比重が高まり、輸出品目は資本・技術集約型の工業製品へシフトしてきた。韓国は新興国を含めて海外販路を広げながら貿易構造の高度化が進み、工業国としての地歩を一段と固めつつある、といえる。
- ・ 当面の韓国経済のリスクとしては短期対外債務の急増減、また従来以上に新興国経済の失速は留意すべきであろう。

13. 韓国の勢い 2010年3月19日 中央三井アセット信託銀行

宮崎 孝志（機械・造船・プラントセクター担当）

<http://www.cnam.co.jp/upload/link/file01176.pdf>

2月28日、17日間にわたって行われたバンクーバー冬季五輪が閉幕した。日本は金メダルこそ獲得できなかったものの、合計5個のメダルを獲得。男子スピードスケート500m、男女フィギュア、女子チームパシュートなど、どれも印象に残る価

値あるメダルであった。一方、アジア勢では、隣国韓国の強さが印象に残った。

1 4. 韓国経済プレゼンス拡大の背景

経済情報No. 9: 2010年 三菱東京UFJ銀行

<http://www.bk.mufg.jp/report/ecoinf2010/No.2010-09.pdf>